

[参考事項]

新技術名：秋田県におけるニホンナシ早生品種「なつしずく」の特性（平成14～22年）

研究機関名 秋田県農林水産技術センター果樹試験場
天王分場班

担当者 長澤正士、原加寿子

[要約]

ニホンナシ「なつしずく」は収穫盛期が「幸水」より6日程早い青ナシである。果重は約340gと2Lサイズ以上となり、無袋栽培でも果皮が美しく外観が良い。肉質は緻密で、多汁であり甘酸適和し、好ましい香気があるため食味が優れる。また、ていあ部の裂果は認められない。

[ねらい]

本県で8月に収穫できる青ナシは「八雲」や「八里」が挙げられるが、両品種ともに酸味が強いいため、県内での栽植はほとんどみられない。そこで、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構が育成した早生青ナシの新品種である「なつしずく」の本県における適応性について検討する。

[技術の内容・特徴]

- 1 ニホンナシ「なつしずく」の収穫始めは、「幸水」より5日早く、「八里」より8日遅い8月下旬である。開花期はほぼ「幸水」、「八里」と同時期である（表1）。
- 2 果重の平均値は、「幸水」より50g、「八里」より20g程度少ない336gである。硬度、糖度は、ほぼ「幸水」と同等で、「八里」と比較して硬度が低く、糖度はやや高い（表2）。
- 3 果形は扁円形で無袋栽培でもさびの発生が少なく、果面が美しく仕上がる（写真1）。
- 4 肉質は「八里」より緻密で「幸水」並である。わずかであるが「筑水」のような香気がある。
- 5 「幸水」では果実肥大が旺盛な年や、仕上げ摘果が遅れるとていあ部に裂果が発生するが、本品種には裂果は認められない。
- 6 花芽の着生は、短果枝については「幸水」並、長果枝の腋花芽については「幸水」よりやや多い。

[普及対象範囲]

県内ニホンナシ栽培地域

[普及・参考上の留意事項]

- 1 収穫前落果が認められるため、落果が多い園地では落果防止剤を散布する。
- 2 ジベレリンペーストを満開30～40日後に果梗に塗布すると、2～3日程度の熟期促進効果と果重で10～20%程度の果実肥大効果がある。
- 3 自家不和合性のS遺伝子はS₃S₄であり、同じ遺伝子型である「筑水」「あきづき」「秋麗」などとは相互に交配出来ない。

[具体的なデータ等]



写真1 収穫直前の「なつしずく」の外観

表1 ニホンナシ「なつしずく」と「幸水」の生態と収穫期

品種名	発芽期	展葉期	開花始	満開期	落花期	収穫始	収穫盛	収穫終
なつしずく	4月11日	4月26日	5月 1日	5月 4日	5月11日	8月28日	9月 1日	9月 6日
幸水	4月 9日	4月27日	5月 1日	5月 5日	5月13日	9月 2日	9月11日	9月15日
八里	4月 8日	4月24日	5月 1日	5月 5日	5月12日	8月20日	8月29日	9月 4日

平成14～18年（5カ年）の平均、但し収穫期については平成16年を除く

表2 ニホンナシ「なつしずく」の果実品質について

品種名	果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (%)	果汁の酸度 (pH)
なつしずく	336	5.1	12.8	5.1
幸水	383	5.3	12.5	5.0
八里	355	5.8	12.4	4.8

「なつしずく」、「幸水」は、平成16年を除く平成14～22年（8カ年）の平均

「八里」は、平成16年を除く平成14～21年（7カ年）の平均

[発表文献等]

なし